



三春中学校だより

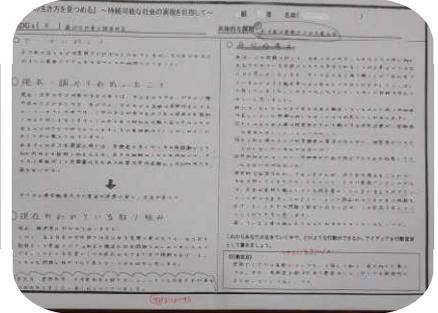
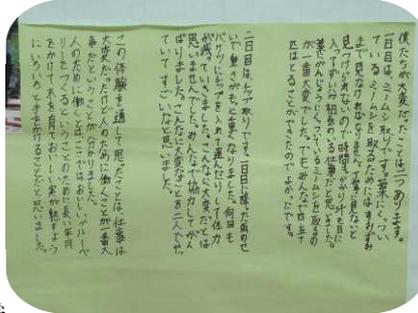
第 20 号

発行日 令和 元年 7 月 24 日
発行所 三春町立三春中学校
電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978
E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【生き方への意識は高まってきています！ ～“総合的な学習の時間”で学ぶ。～】

「この体験を通して思ったことは、仕事はたいへんだっただけけれど、人のために働くことがいちばん大事だということがわかりました。人のために働くとは、ここでは、ブルーベリーを作るために長い年月をかけて木を育て、おいしい実が熟すようにいろいろと手をかけることだと思います。」この記述は2年生の職場体験のまとめのものです。



総合的な学習の時間における職場体験は、職業について調べ、職業を体験することを通して、職業観、勤労観を身につけ、高めると共に、体験を通して、自らの生き方について考えていくための学習活動です。この班では、ブルーベリー農家での体験を通して、その職業を理解すると共に、人のために働くことの大事さを理解し、自らのために働くことの大事さを自覚して生きていきたいという学びをしました。自分以外の人のことを考えて行動することは、社会生活を円滑に過ごすために欠かせない姿勢でもあります。職業についての理解と共に、社会で生きていくためにはどのようなことが大事かということとても大切なことを学んだ2年生でした。

さらに、その右の写真は、3年生の総合的な学習の時間『自分の生き方を見つめる』～持続可能な社会の実現をめざして～の学習のまとめとして記録された資料のコピーです。小さくて読めずに申し訳ございませんが、その中には、『活動を通して知ったこと（知識）』が左半分にまとめられています。本校の1～3年生が取り組んだこれまでの総合的な学習の時間のまとめではここまでのまとめがほとんどでしたが、今年度の3年生の資料には、『知識』から自らの意見や考え、そして、どう生きていくか、どう行動化していくかまでが述べられています。そこまでを子どもたちに求め、見事、子どもたちはそれに答えていました。そこには、「日本の猫1匹の食べる猫缶の値段は年間1万6千円になり、ほとんどが輸入されている。タイの猫缶製造工場の労働者は1日10時間働き月給1万2千円、タイの1家族の1ヶ月の生活費平均は1万5千2百円である。（得られた知識）…猫缶からタイのこと、東南アジアのことまで考えた。（自分の考え）1つの商品からさまざまに視野を広げ、結びつけ、困っている人の役に立てるような生き方をしていきたい。」（自分の生き方）というふうなまとめられています。



ホームベースロッカーの整理整頓、雑巾がけにきちんと掛けられた雑巾、あなたは、「いかして生きていきますか。」

【研修報告：自尊感情を高めよう！ ～発達障がいについて学んできました。～】

文科省の全国調査で示された通常学級に6.5%存在するという特別な配慮を必要とする子どもたちは、何かしらの生きづらさを抱えながら、集団の中で生活していこうと一生懸命がんばっています。そんな困っている子どもたちを理解し、共に学び、共に生きていこうとする姿勢は、共生社会の実現に欠かせない学びとなります。今回、そのことについて学ぶ機会をいただきましたので研修報告をいたします。通級指導教室に関する講演で、教員向けのお話ですが、困っている人全般に関係することでもありますので、講演内容を解釈して活用し、いろいろな困り感に対処してまいります。

『学びの連続性の中で通級による指導を考える』～小・中・高におけるそれぞれの役割～

宮城学院女子大学教育学部教育学科 教授 梅田真理 先生

「目の前の子が大人になったとき、周囲に「先生」と呼べる人がいないときどうしますか。」通級（特別支援学級）の目標をそこまで視野に入れ、その実現のために、小・中・高で何をすればいいかを考えていくことが大切です。最近の大学には障がい学生支援室というものが必要されています。大学生の中にも特別な支援が必要な学生がいるという時代です。

1 通級指導教室における支援

通級の授業のはじめはその大まかな流れ（プロット）の提示に始まります。児童生徒が安心して学べるためであり、それは、年齢に関係なく、これから起こることに対して見通しをもたせるために必要なことなのです。

一方、児童生徒に対する支援は少しずつ減らしていき、減らした分を自分の力でできるようにしていくことを心がけたいものです。ただし、支援を減らすためには準備が必要であり、減らすにも少しずつ減らしていくことが大切です。

指導に際しては、指導者側が、学年・年度がわり、長期休業明けの変化に敏感でありたいし、その時期は普段より多めの支援を行うよう準備しておくこと。先手をうって準備しておくことで、変化にも落ち着いて対応することができます。

特別支援教育の理念『自立や社会参加にむけた主体的な取組を支援するという視点で、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高める』は、どの子にとっても必要な教育の支援であり、通級担当からもそのことを通常学級の先生方に伝えていきたい。通級の生徒は普段は学級に戻るため、通常学級の先生にもその理念を理解してもらわないといけないのです。

『発達障がい』とは、たくさんの障がいの総称であり、心理、行動、情緒の障がいも含んでいて、グループ名と捉えたい。社会や学校では理解は進んできているし、気づきも増えている。だから、「発達障がいだから」、「たいへんだ。」で終わらせないで、本人をそのまままるごと見つめ直し、詳しく見ていくことが大切です。自分の目でしっかりと目の前の子どもたちを見ていきたい。

2 通常の学級の担任との連携

全国の通常学級に在籍する学齢児童生徒65万人のうちの6.5%が著しい特性をもち、何かしらの特別な配慮を必要としているという文科省の調査があり、かなりの人数の児童生徒への特別な配慮についてみんなで考えていくことが大切になってきます。特別な配慮を必要とする児童生徒のことについてみんなで話し合い、対応していけるためには、①管理職のリーダーシップ、②キーパーソンとしての通級担当教員、③教職員の共通理解が欠かせません。特別支援教育の充実のためには、通級担当が特別支援教育推進コーディネーターや養護教諭、生徒指導主事を巻き込み、管理職と共に組織的、全体的な取組をしていくことが大切です。何か一つでも教職員が一緒になって取り組む機会と場によりそれは実現の方向に向かいます。

さて、人は「読み」「書き」の際にどんな能力や方法を使うのでしょうか。「魑魅魍魎」(ちみもうりょう)という漢字をよく見て、その後、見ないで20秒間でその漢字を書いてみましょう。すると、一つ一つ4つの漢字を順番に書こうとする人、「鬼(鬼によう)」は共通なので鬼によう以外の部分を覚えて書こうとする人などさまざまです。つまり、大人でもやりやすい方法はさまざまなのです。困っている子どもにもその子なりのやりやすい方法を見つけてあげること、見つけられるように育てていくことが大切なのです。

そのためには、一人ひとりの状態をよく観察すること、個々に応じた実態把握が大切です。決して診断名にこだわらないこと、診断名で一括りにしないことがより正確な実態把握につながります。その際、子どもの好ましくない言動が「なまけ」や「わがまま」に見えてしまうこともあるということをしっかり認識しておくことが大切です。

通常学級と通級の連携としては、実態の共通理解と目標の共有、学級と通級で一貫して指導し、通級でできたことを学級で認めてもらうことも必要です。

大切なことは、自分のできる範囲を把握させ、できないことを自覚させることです。そのためには教師の専門性の向上は欠かせません。多くのネットワークを作り上げ専門性の向上をめざしたい。

また、通級の子どもの別れを意識した指導も必要である。いずれは子どもを学級に帰すことが肝心であり、その見通しをもちつつ子どもの実態をふまえ、『今やること』について検討したい。支援はいつまでもではなく、少しずつ減らしていくという方向性を保護者と共通理解しておく必要もあります。通級にとどまることは本来の姿ではありません。

校内でのチームづくりに努め、今のシステムをうまく活用しながら、通級の子どもの子どもたちも含めて、すべての子どもたちの支援・配慮について話し合っていくようにしたい。(次号に続く)

【命のかけがえのなさを心に！ ～性感染症予防について学びました。～】

命輝く夏を間近に控え、かけがえのない自分の命、相手の命を守るためには、どんなことを心がけ、どう生活し、生きていったらいいのかについて改めて学び、確認しておかなければなりません。

7月19日(金)に、第3学年において、「性感染症予防講座」を実施しました。校外より助産師さんをお迎えし、命がこの世に生

まれたときのお母さんの喜びや感謝などからお話をはじめられ、かけがえのない大切な命、そして、自他の体を守る意識と態度の大切さをお話いただきました。

CGに勢揃いした3年生と同じ目線でお話いただく助産師さんの一つ一つのスライドに子どもたちは真剣に目とところをむけ、これからの生活、夏休みの生活への心構えとしていました。

